

# 中学校特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した生活力を育成するためのカリキュラムの研究開発

藤井 朋子・小田原 舞・西 勉・向井 紋子・林 孝\*・若松 昭彦\*

**要約:** グローバル化が一層進行するこれからの社会において、将来の就労を含む生活に向けた生活力の育成を目指し、教科「職業・家庭」に新たに社会生活に関する内容を加味した教科「キャリアマネジメント」を教育課程に位置づけ、カリキュラム開発を行っている。評価の4観点とキャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力を用いた評価によって生徒の変容を見取り授業評価を行うことで、カリキュラムについて検討した結果、生徒や保護者、教員に対して一定の効果があつた。今後は、学習過程とそれによって身につく資質・能力について整理することが課題である。

**キーワード:** 特別支援教育, キャリア教育, カリキュラム開発

## I. はじめに

グローバル化が加速している昨今の社会においては、適切な知識を習得し、他者と協働して社会参画を目指すことができる資質・能力が求められている。特別支援教育においても、学校教育終了後の就労を含む生活への移行をよりスムーズにしていくためには、育成すべき資質・能力であるだろう。東雲小学校・東雲中学校は今年度より「グローバル時代をきりひらく資質・能力を培う教育の創造」をテーマに研究を推進している。本校は、グローバル時代をきりひらく資質・能力として、主体性、多様性、協働性を挙げている。これら3つの資質・能力を特別支援教育の視点から整理した結果、人とかかわりを通して育むことができると考えた。従来より本校特別支援学級では、人とかかわりやコミュニケーションを重視した授業づくりを行ってきた。現在は、生徒自身が将来の社会生活をイメージできるような授業づくりに取り組み、社会的・職業的自立を目指した生活力を育成するためのカリキュラム開発を行っている。人とかかわりながら協働的に問題を解決していく場面を意識した授業実践を取り上げながら、今年度の研究の歩みをまとめる。

## II. 研究の経緯と目的

本学級は中・軽度の知的障害特別支援学級である。今年度は3学年合わせて16名の生徒が在籍している。比較的規模の大きな学級集団であることを活かし、生徒相互のかかわりを大切にしながら生活力を高める指

導・支援を行っている。これまで本学級では、特別支援学校学習指導要領および作業学習の手引き（改訂版・平成7年度）をもとに、作業を活動の中心に据えた学習を展開してきた。平成21年度は従来の職場体験学習にジョブサポートティーチャーの指導を加えた形態へと変更を行った。また平成22年度からは、職場体験学習と作業学習を関連づける試みとして、広島県教育委員会が実施している「技能検定」に準じた清掃スキルの指導を取り入れ、就労をより意識した指導を行ってきた。更に平成23年度は、新たな雇用を創出している社会的企業をモデルにした学習指導体制を組むことで、生徒相互の協力と、自らの役割を担って主体的に働くことを意味づける授業実践を推進してきた。そして平成24年度は、合わせた指導の形態として「職業生活」を設定し、指導の充実を図ってきた。

これら一連の研究により明らかになった課題として、次の3点が挙げられる。一つは社会情勢にかかわる課題である。障がい者の就労をめぐる社会情勢は、平成26年の障害者権利条約の批准に先立ち、平成25年には改正障害者雇用促進法と障害者差別解消法が成立し法定雇用率が引き上げられるなど法整備が進む中変化してきている。職種についても、第1次産業中心から接客や清掃といった第3次産業への就労も増えてきている。雇用の拡大や職種の広がりに伴い、生徒自らが自分の興味関心や適性に応じて就労を考えていく中で、職業リハビリテーション等の就労支援へのニーズも多様化・複雑化している。また、受け入れ企業からは働くことへの意欲等に課題のあることが指摘されている。

\* 広島大学大学院教育学研究科

二つ目は教育課程にかかわる課題である。学校教育におけるキャリア教育の推進により、就労を意識し社会的・職業的自立を目指した特色のある実践が各学校で行われてきている。特別支援教育では一般的に職業的自立を意識した指導として、教科「職業・家庭」や合わせた指導の形態である「作業学習」、小学校段階では「生活単元学習」が取り組まれ、働くことへの基礎となる事項を学習できるように教育課程が編成されている。しかし、就労の現場においては、コミュニケーションや人間関係形成にかかわる力や課題を遂行する力、任務を適切にこなせたかどうかを自己評価できる力、さらには将来にわたって主体的に生活していくことのできる力等も必要である。社会的・職業的自立のためには、指導内容として教育課程に位置付ける工夫が必要である。

三つ目はキャリア教育の推進にかかわる課題である。児童・生徒の勤労観、職業観を育てるキャリア教育への期待は年々高まっている。キャリア教育推進の方策として、社会、国語等既存教科や道徳の授業との関連づけ、発達段階に応じた教室での学習プログラムの開発、指導の工夫・改善等と並び、職場体験や職業人へのインタビュー等体験活動を通して社会の仕組みについての理解を深める取り組みが増えている。中等教育段階は進路の将来的選択期、進路の現実的探索・試行と社会的移行準備期とされ、職場体験学習を含む様々な実践が、各教科・領域で行われている。キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実践の成果も徐々に上がっている。また「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の4つの能力領域が示されるとともに、小・中・高等学校の系統的に整理されたマトリックスが示され、整備が進んできた。しかしながら、キャリア教育は新しい教育活動を指すものではないとしてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、体験活動が重要という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりすること等、各教科・領域において一人ひとりの教員の受け止め方や実践の内容・水準にばらつきがある中で指導を行っていることや、そのつながりが明確になっていないために系統性が不十分であること等の課題がある。

これらの課題の解決に向け、平成25年度からは文部科学省の研究開発学校の指定(4年間)を受け、カリキ

ュラム開発を進めることとした。本学級でこれまでに「職業生活」や「生活単元学習」で指導してきた内容を、教科「キャリアマネジメント」を設定し、職業に関するもの、家庭生活に関するもの、将来の社会生活に関わりの深いものに整理し、有機的に関連付けた指導を行った。

平成26年度は、「キャリアマネジメント」を教科「職業・家庭」の内容にライフキャリアの視点を踏まえた内容を付加した教科とし、グローバル化する社会情勢に対応した新たな指導内容として位置付けた。作成したカリキュラムの通年実施による教育的効果および課題を明らかにし、改善カリキュラムの作成を行った。また、広島県内の特別支援学校(知的障害)の教員を対象に、中学部と高等部の連携や各学部でつきたい力についてアンケートを実施し、実態把握を行った。

平成27年度は、「キャリアマネジメント」で育成しようとする資質・能力を踏まえ、改善カリキュラムを実施し、授業改善を図るとともに、生徒、保護者、教職員の意識の変化をとらえ、実施による効果を測定し、教育的効果および課題をさらに明らかにしていく。

### III. 調査対象

本校特別支援学級生徒16名

(1学年4名、2学年6名、3学年6名)

本校特別支援学級生徒の保護者

本校特別支援学級担当教職員

### IV. 研究方法

改善カリキュラムを通年実施し、以下の方法で効果、課題を明らかにする。

1. 発達検査(S-M社会生活能力検査, K-ABC, WISC-IV, TTAP)等による生徒の実態把握
2. 日々の授業における生徒の変容の見取りやワークシート等による学習評価、授業評価
3. 研究授業実施による外部からの学習評価、授業評価
4. 生徒および教職員、保護者対象アンケート調査の実施および分析

### V. カリキュラム開発の概要

昨年度の反省と課題をもとに、教科「キャリアマネジメント」で育てようとする資質・能力、および教科「職業・家庭」に付加した指導内容、単元構成や指導時数の見直しを行い、改善カリキュラムを作成し、今年

度通年実施した。評価については、昨年度に引き続き、評価の4観点と基礎的・汎用的能力の4能力をクロスさせた16項目の観点別による分析的な評価を行った。今年度は授業ごとに特に重点を置く観点を設定することで、単元全体を見通しながら授業ごとの視点を明確にして授業を実施し、生徒の変容の見取りと授業の評価・分析を行うこととした。

次に、本年度「キャリアマネジメント」を実施するにあたって定めた目標、育てようとする資質・能力、指導目標、教育課程（表1、2）、指導形態をあげる。

### 1. 目標

社会生活および職業生活・家庭生活に必要となる基礎的な知識・技能と態度の習得を図り、自己の将来の生活についてマネジメントしようとする態度を育てる。

### 2. 育てようとする資質・能力

- ア、主体的な社会生活への意欲
- イ、他者と適切にかかわる力
- ウ、自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲
- エ、自己の理解と把握による評価力

### 3. 指導目標

- (1) 自己の適切な把握に基づき、思考・判断・選択を繰り返しながら学習活動を行い、集団の中で役割と責任を果たすことができるようにする。
- (2) 社会生活、職業生活、家庭生活に必要な知識と技能を身に付け、将来の自立した生活に向けた意欲を持つことができるようにする。

### 4. 教育課程

平成27年度の教育課程表を表1、2に示す。

### 5. 指導形態

学習内容に応じて一斉や学年別、学年縦割りのグループを主とした学習集団を編成し指導を行う。

「職業生活に関する内容」は、原則として一斉および学年縦割りの3グループによる指導とする。ただし、「職場体験学習」は学年別の指導とする。「社会生活に関する内容」は、原則として学年別の指導とする。ただし、「進路を語る会」や「余暇活動」は一斉での指導とする。また、1つの単元であっても、学習内容により効果的に学習集団を編成し指導する。「家庭生活に関する内容」は、学年別の指導とする。1年間で「衣生活」「食生活」「住まい」の3分野を全て扱うこととする。

表1 平成27年度各教科等の授業時数配当表

学 年		1 学年	2 学年	3 学年	総授業時数	
各教科	必修教科	国語	105	105	105	315
		社会	70	70	70	210
		数学	105	105	105	315
		理科	70	70	70	210
		音楽	35	35	35	105
		美術	70	70	70	210
		保健体育	70	70	70	210
	選択教科	外国語	70	70	70	210
	特例によって設置した教科	キャリアマネジメント	210	210	210	630
	道徳		35	35	35	105
総合的な学習の時間		70	70	70	210	
特別活動		35	35	35	105	
自立活動		70	70	70	210	
合計		1015	1015	1015	3045	

表2 平成27年度指導形態別授業時数配当表

学 年		1 学年	2 学年	3 学年	総授業時数	
各教科等を合わせた指導	生活単元学習	245	245	245	735	
各教科	必修教科	国語	70	70	70	210
		社会	0	0	0	0
		数学	70	70	70	210
		理科	0	0	0	0
		音楽	35	35	35	105
		美術	70	70	70	210
		保健体育	70	70	70	210
	選択教科	外国語	70	70	70	210
特例によって設置した教科	キャリアマネジメント	210	210	210	630	
道徳		0	0	0	0	
総合的な学習の時間		70	70	70	210	
特別活動		35	35	35	105	
自立活動		70	70	70	210	
合計		1015	1015	1015	3045	

## IV. キャリアマネジメントの単元計画と授業実践

改善カリキュラム実施にあたって、すべての単元について単元計画を作成した。次に、実施した単元のうち、いくつかを抜粋して、単元計画と授業実践の結果を挙げる。

## キャリアマネジメント（しごと）分野 単元計画と授業実践

単元名 「私たちの東雲コーポレーション」（食品加工グループ）

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 学年縦割りで5～6人のグループを3つ編成し，学期ごとに学習内容をローテーションする。

### 単元設定の理由と指導内容

生徒の将来像として，社会生活や職業生活の中で，集団の一員として生きていく姿が想像される。そのような生活においては，他者との関係の中での自分を意識して行動できたり，協働して仕事をするのができたりする力が必要となっていくと考えられる。本単元では作業種目を特別支援学校高等部の作業学習で多く行われている種目や将来の社会生活および職業生活との関連，学校の人的設備的環境，生徒の興味関心を考慮し設定した。会社（東雲コーポレーション）に見立てた学習とし，それぞれの役割を分業し協力して作業を行うことで，他者と一緒に働くということ意識した言動やマナーを身につけたり，自分が役割を確実に果たすことの大切さを理解したりすることができる。指導にあたっては，授業開始時のミーティングや目標設定，授業後の振り返りを大切に，働き方を指導の中心に据える。本グループでは生徒の興味関心が高く，できあがりイメージしやすい食品加工を扱う。衛生の必要性，計量の正確さなど，細かい部分にも留意して指導を行う。

### 指導目標

- (1)活動の目標に沿って，計画的に作業を遂行することができるようにする。
- (2)相手を意識して製品を考え，試作・改善する活動を通して，主体的に考え，判断し，合意形成していける力を育てる。
- (3)それぞれの役割を遂行し協働することを通して，相手を意識した行動やコミュニケーションがとれるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	相手の意見を聞いて，自分の考えを正確に伝えることができる。	相手の思いや意見を正確に理解することができる。	分業について理解し作業することができる。
自己理解・自己管理能力	任された作業に意欲を持ち，遂行することができる。	自らの思考や感情を律することができる。	他者との協力や協働を主体的に行うことができる。	自分の持ち味を把握し，力を発揮することができる。
課題対応能力	自らが行うべきことに意欲的に取り組むことができる。	作業に応じた道具の選択ができる。	道具を安全・適切に扱うことができる。	指示を理解し，作業を行うことができる。
キャリアプランニング能力	集団の中での役割と責任を果たそうと，意欲的に作業に取り組むことができる。	目標に沿って作業を行えているか振り返ることができる。	目標に沿って作業を遂行できたか，達成度を評価できる。	自らが果たすべき様々な立場と役割を踏まえて作業を行うことができる。

### 個別の目標と支援（例）生徒D

個別の目標 自分が分担する作業を理解し遂行することができる。

支援 担当する作業の手順を視覚的に提示し確認させる。

評価規準 自分の担当する作業ができたことを，次の担当者に言葉で伝えることができる。

（知識・理解／人間関係形成・社会形成能力）

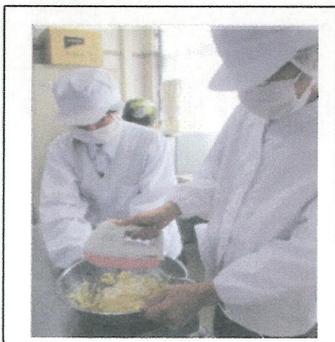
指導計画と実施時期（全75時間 ※3学年は71時間 年間を通じて実施）

第1次 商品開発（18時間）

第2次 試作品作り，改善，商品作り（50時間 ※3学年は48時間）

第3次 接客サービス（7時間 ※3学年は5時間）

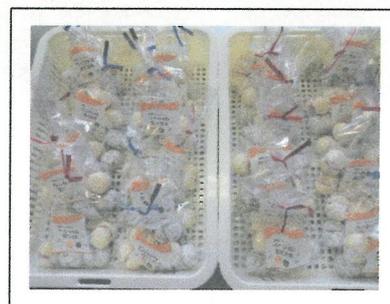
### 学習活動の様子



製品作り



接客サービス



販売した商品の一例

### 指導上の工夫点・改善点

- ・企業見立ての指導を行った。年間4～5回の販売の機会を設け、自分ではなく他者のための製品作りを意識できるようにした。適宜アンケートも実施し他者評価を取り入れた。
- ・協働して作業活動に取り組む上で守るべきルールを設定し、授業始めのミーティングで唱和し、意識して学習活動に臨めるようにした。
- ・縦割りのグループ編成を活かし、上級生がリーダー・サブリーダーを務めるようにした。リーダーは事前に作業内容を確認してグループメンバーに伝えたり、3グループ全体で行うミーティングの司会進行を行ったりした。グループの話し合いや振り返りもリーダー・サブリーダーが中心となって進めるようにし、生徒が主体の活動となるようにした。
- ・4時間連続の時間割とし、生徒自身が考える時間を大切にした。リーダーを中心に目標設定を行い、学習の目当てを明らかにして学習活動に臨めるようにした。活動後は振り返りを行い、目標の達成度を評価し、次時の学習活動につなげるようにした。
- ・評価表に他者への評価欄を設け、他者を意識し協働することへの意識付けを行った。

### 生徒の変容

- ・自分の役割を責任をもって果たそうとする姿が見られた。その結果、課題遂行力も高まった。
- ・目標を意識して活動し振り返りをする中で、次の活動に活かすといったサイクルを自分たちで実行できるようになってきている。
- ・グループメンバーの良さを認めるとともに、直してほしいことを伝えるなど、協力してよりよい活動を目指していこうという意識が高まっている。

## キャリアマネジメント（しごと）分野 単元計画と授業実践

単元名 「職場体験学習」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 学年ごと

### 単元設定の理由と指導内容

中学校・高等学校は学校から地域社会へと生活の場を広げていく時期である。生活も家庭や学校を中心としたものから働く生活を少しずつ考えていく段階にあり、徐々に職業への関心を高めていくことが必要である。

1 学年では、校内で働いている職員から指導を受け、日々見ている身近な仕事に関心を持たせたい。また、その経験を通して、職業生活に必要な身だしなみやマナーを学ばせたい。

2 学年では、これまでに学習してきたことや第3学年の職場体験学習の見学により、自分たちが社会に出て働く事に興味をもち始めている。そこで、校外での実際の仕事の体験をとおして、知識や技術・技能に触れることで、働くことの意義や進路について考える力の育成に繋げたい。

3 学年は2回目の校外での職場体験学習であり、生徒それぞれこれまでの経験を活かし、工夫・改善を図る機会を得ることになる。働くということについて、これまでの体験活動も含めて振り返ることで、働くことの意義や進路について考えを深め、将来の職業生活を主体的に考えていけるようにしたい。

### 指導目標

- (1) 状況に応じた身だしなみやマナーを理解し、適切にコミュニケーションをとることができるようにする。
- (2) 働くことについての関心を高めることができるようにする。
- (3) 指示を理解し、連絡・報告・質問などを行いながら、業務を遂行することができるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	自分の将来について感心を持つ事ができる。	状況を判断して、場に応じたあいさつや返事、報告、連絡をされている。	相手に伝わるようにあいさつや返事、連絡、報告をすることができる。	なぜ、あいさつや返事、連絡、報告をするのかわかる。
自己理解・自己管理能力	自分の役割を主体的に行おうとしている。	自分で状況を考え、適切なふるまいをする。	一定の時間、指示内容に沿った作業ができる。	自分の役割を知り、活動に取り組む事ができる。
課題対応能力	指示されたことをやってみようとする。	仕事が適正に行われたかを正しく評価している。	指示された仕事を遂行することができる。	業務に応じた適切な用具があることがわかる。
キャリアプランニング能力	計画に沿って仕事をすることに意欲を持つ。	どのような計画を立てるのがよいか考える。	実習計画を立てることができる。	計画を立て、作業をする必要があることがわかる。

### 個別の目標と支援（例）生徒I

個別の目標 必要な場面で自分からあいさつや連絡・報告・質問などを行うことができる。

支援 どのような場面で連絡・報告・質問が必要か、ロールプレイ等を用いて学習しておく。

評価基準 自分からあいさつや連絡・報告・質問を行おうとしている。

（思考・判断・表現／自己理解・自己管理能力）

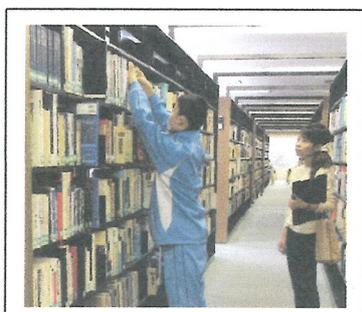
## 指導計画と実施時期

	1学年（全12時間）	2学年（全27時間）	3学年（全31時間）
実施時期	平成27年6月に実施	平成27年11月に実施	平成27年6月に実施
第1次	実習の計画（2時間）	実習の計画と予備実習（4時間）	実習の計画（2時間）
第2次	実習先でのマナー（1時間）	実習先でのマナー（1時間）	実習先でのマナー（1時間）
第3次	公共の場で（1時間）	公共の場で（2時間）	公共の場で（2時間）
第4次	職場体験学習（6時間）	職場体験学習（18時間）	職場体験学習（24時間）
第5次	振り返り（2時間）	振り返り（2時間）	振り返り（2時間）

## 学習の様子



東雲中学校内での実習



広島大学図書館での業務



清掃前のミーティング

## 指導上の工夫点・改善点

- ・1年次は身近な校内での体験からはじめ、2年次は広島大学東広島キャンパス内での3日間の職場体験を行い、3年次は実施日数を、休日を挟んだ4日間として行った。実習を通して、将来の就労について段階的に体験できるように工夫した。
- ・広島大学では、福祉就労している職員やジョブコーチによる指導や、サポートティーチャー（学生ボランティア）の支援等を受けながら、学部棟の清掃や図書館、農園での作業を体験した。生徒が3年次までに、広島大学での職場体験を2度行うことにより、職員の方も以前の様子を覚えており、より生徒実態に合う作業内容を検討していただくことができた。また1度目の実習からの成長のコメントもいただくことができた。
- ・これまでの学習や経験を活かし、職場体験学習での目標を、生徒一人ひとりが立てて取り組めるように実習日誌に記入させた。
- ・保護者参観の機会を持った。実際に子どもたちの様子を見てもらうことで、どのような体験をしているか知ってもらうだけでなく、家庭で将来について話をするよい機会にもなった。
- ・サポートティーチャーに評価表の記入や生徒のしおりへのコメントをもらい、振り返りに利用した。

## 生徒の変容

- ・1学年は校内で初めての实習を行い、実際の仕事の大変さに気づくことができた。そのことを職員に質問し回答してもらうことで、将来について考えることにつながった。
- ・2・3学年はこれまでの体験から、見通しを持って臨んでおり、関心・意欲・態度が高かった。
- ・個人で立てた目標を意識した行動や言動が見られた。
- ・サポートティーチャーにコメントを記入してもらうことで、自分の良かったところや課題を確認することができ、次の活動に繋げている生徒がいた。また、直接、技術の向上やがんばりをほめられることで、自己の成長を感じている記述が見られた。

## キャリアマネジメント（しごと）分野 単元計画と授業実践

単元名 「職場見学」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 学年縦割りで5～6人のグループを3つ編成する。

### 単元設定の理由と指導内容

各企業や事業所の見学を通して働くことに関心を持ち、実際に働いている人の様子や工場の設備、商品の開発等を見学することで、働くことを理解し自らの姿に反映する。

『食品加工』『クラフト』『情報・サービス』それぞれのグループで、自分たちの作業改善に役立つような質問を考えさせ、見学当日、質問をさせる。また、工場見学だけでなく、作業を体験させていただき、学校生活では扱えない本格的な用具を使っての作業を体験させる。また、見学後には質問した内容や答え、体験して感じたこと、今後の作業に生かせることなどをまとめさせる。

### 指導目標

- (1) 自らの社会生活・職業生活をイメージすることができるようにする。
- (2) 身近な職業を知り、進路について考えることができるようにする。
- (3) 自分や友だちの良さを知り、自らの進路を考えることができるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・ 社会形成能力	計画，実施において他者と関わる事に進んでとりくむことができる。	職場見学において質問内容を考え適切に対応する事ができる。	お互いの意見をまとめ計画を立てることができる。	見学を通して，協力して働くことで，多くの仕事がり成り立っている事が理解できる。
自己理解・ 自己管理能力	コミュニケーションを図りながら組織の中で働く姿を見て，自らも進んで協力しようとする。	身近な働く人の姿を通して，自分たちの活動に活かす事ができる。	自己の特性に応じ無理のない計画を立てることができる。	職場見学に必要な情報について適切に扱う事ができる。
課題対応能力	互いの気付きや考えを発表し合い，考えを共有し合うことができる。	グループでの互いの考え方を共有して考えを深める。	分かりやすい伝え方を工夫する事ができる。	自分なりの働くことに対する考えを深める事ができる。
キャリアプラン ニング能力	将来の仕事や働くことに意欲をもつ事ができる。	将来に向けて，今できる事について考える。	見学計画をたて乗り物を使って目的地に行くことができる。	色々な仕事や職種があることを知り将来へのイメージを持つことができる。

### 個別の目標と支援（例）生徒J

個別の目標 質問・見学を通して得たものを，自分たちの活動につなげることができる。

支援 自分の生活に繋がる質問内容を準備する。

評価規準 自分たちの活動に繋がる報告内容がある。

（思考・判断・表現／自己理解・自己管理能力）

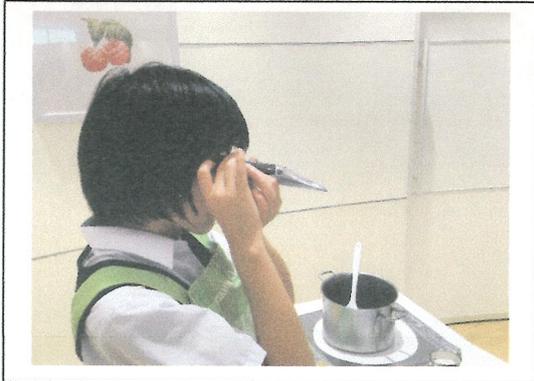
指導計画と実施時期（全12時間 平成27年9月に実施）

第1次 職場見学のプラン作り（4時間）

第2次 職場見学（6時間）

第3次 職場見学のまとめ（2時間）

#### 学習活動の様子



初めて使用する糖度計



高温の食品を安全に扱う

#### 指導上の工夫点・改善点

- ・『しごと』を意識させるため、しごとの学習グループで活動させた。
- ・職場見学後、自分たちの作業改善に生かせるように質問を考えさせることで、働くことを理解し自らの姿に反映できると考えた。
- ・見学のみでなく、実際に体験させていただくことで、働くことに関心を持ち、働く上での注意点や働いた後の達成感などが味わえると考えた。
- ・職場見学後、個人のまとめにとどまらず、協力して新聞を作らせることで、学んだことを自分たちの『しごとはどう生かせるか!!』を共有し、実践力が高まると考えた。

#### 生徒の変容

- ・質問の場面では、自分の役割を責任をもって果たそうとする姿が見られた。その結果、課題遂行力も高まった。
- ・学校生活では扱えない本格的な用具を使っての作業を体験させていただいたことで、緊張感を持ち、説明をよく聞き、丁寧にまた、衛生的に作業に取り組めた。
- ・製品ができあがるととても喜び、作業の成功に達成感を感じていた。
- ・今回は作業内容が「ジャム作り」だったが、『情報・サービス』『クラフト』のグループも、今後の自分たちの作業改善として「用具の整理整頓」や「お客様に喜んでもらえるよう商品開発し続ける大切さ」などに気づくことができた。

## キャリアマネジメント（くらし）分野 単元計画と授業実践

単元名 「くらしの110番」  
 指導対象 東雲中学校 第1学年3組 4名（男子3名，女子1名）  
 指導形態 学年

### 単元設定の理由と指導内容

日常生活には、地震や気象などの自然災害や火事や交通事故など、さまざまな危険に遭遇する可能性がある。どのような事態になるか想像しにくいものもあるが、これらの事象から身を守ること、対処方法等基本的な事項を理解し、社会生活で、また学校や職場で安全・防災への意識を高めていくことは、生徒たちが社会生活を考えていくうえで有益であると考えられる。

### 指導目標

災害・交通・病気等の災害から身を守るとともに健康で安全な生活をしていくことの大切さについて理解し、実践できるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	地域社会での防災意識を高める。	状況に応じてどのような行動をとるかを判断する。	周りの状況を判断し危険回避行動をとることができる。	登下校中は緊急の避難場所に行き、家族と出会うことがわかる。
自己理解・自己管理能力	自らの特性に応じて回避行動をとることに関心を持つ。	どのような回避行動が適切であるかを考えることができる。	自己の特性に応じた回避行動をすることができる。	災害時に必要となる自己の情報を適切に扱うことがわかる。
課題対応能力	様々な状況に応じた行動をとることに関心を持つ。	状況を判断し、安全のために必要な行動を考えることができる。	状況を判断し、適切な回避行動を実行することができる。	状況判断を適切に行うことにより危険を回避できることがわかる。
キャリアプランニング能力	災害時の防災行動を計画することに意欲を持つ。	社会生活の中で遭遇する様々な危険から身を守る行動を考えることができる。	地域の様々な情報を収集し防災・危険回避行動を計画立てることができる。	日ごろから防災意識を持ち、計画的な訓練の必要性を理解する。

### 個別の目標と支援（例）生徒M

個別の目標 状況を判断し、適切な行動を考えることができる。

支援 適切な行動を文章や絵から選択させる。

評価規準 どのような行動をとることが適切であるか判断することができる。

（思考・判断・表現／課題対応能力）

### 指導計画と実施時期（全12時間 平成27年6月～7月に実施）

第1次 防災への意識を高め、状況に応じた命を守る行動について知る。（2時間）

第2次 地域の安全について調査し、まとめる。（8時間）

第3次 身の回りに起こりうる様々な災害から身を守るとともに、遭遇してしまった場合の適切な処置や行動選択がとれるようにする。（2時間）

## 学習活動の様子



安全マップ作り（通学路に潜む危険から身を守るために）

### 指導上の工夫点・改善点

- ・毎日の通学に利用する道を実際に歩きながら、身近に潜む危険と安全について考えていくため「安全マップ作り」を設定した。
- ・日々の通学から、すでに危ないと感じている場所がある生徒も多く、事前学習では、それらを自ら仲間に伝え、共有しようとする姿が見られた。
- ・校外での学習場面では、生徒が何気なく行っている普段の行動についても危険につながることはないかと考えることができるよう、時折立ち止まりながら自らの今の行動について振り返り、生徒同士が意見交換できる時間を設けた。
- ・防災・災害対応については、本校の災害対策訓練とも絡めながら学習が深まるようにした。

### 生徒の変容

- ・毎日の通学において考えてもいなかった危険について本単元により気付いた生徒たちは、多少遠回りになろうとも、より安全な通学路を選択し利用するようになるなど、自分の身は自分で守るという意識が高まった。
- ・危ないと思われる行動を仲間がとっている時には、声を掛ける場面が見られるようになった。
- ・災害時に取るべき行動については、本校の災害対策訓練において学習したことを思い出し自ら実践する姿が見られるようになってきた。

## キャリアマネジメント（くらし）分野 単元計画と授業実践

単元名 「わたしのキャリア」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 学年ごと

### 単元設定の理由と指導内容

中学校卒業後，特別支援学校高等部になると，職場見学・実習といった実践的体験的学習を通して自分の進路を考える段階になる。このことを考慮すると，中学校段階では働くということはどういうことか，自分の将来の社会生活をどうプランニングするか，といったことをイメージしておくことが必要であると考え。身近な先輩である青年学級生（本学級の卒業生）の話を聞いて様々な情報を得たり，働くことだけでなく余暇の過ごし方も含めた将来の社会生活について考えたりすることで，スムーズな高等部段階への移行，さらには就労の実現を目指したいとの考えから本単元を設定した。

### 指導目標

- (1) 自己の特性を知り，将来の生活を考えることに関心が持てるようにする。
- (2) 将来の社会生活への意欲が持てるようにする。
- (3) 自己の興味・関心に基づきプランニングを行い，進路を切り拓くことに意欲が持てるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	他者の意見を聞くことに意欲を持っている。	自分の思いを相手に伝えたり，他者の思いを受け止めたりしている。	相手の意見を聞いたり，自分の意見を伝えたりすることができる。	自分の置かれている状況や，自分に必要な知識や技能，能力，態度がわかる。
自己理解・自己管理能力	自分の進路について前向きに考えようとしている。	自分の進路の実現に向けてやるべきことを判断している。	自分のやるべきことに集中し，自制して取り組むことができる。	自分がやるべきことを理解するとともに，ストレスへの対処の仕方がわかる。
課題対応能力	さまざまな情報を主体的に選択し，活用しようとしている。	進路を実現する上での課題を発見し，分析している。	課題の解決に向けて計画を立案し，実行することができる。	進路実現に向けての課題をどのように解決していけばよいか理解している。
キャリアプランニング能力	自分の将来設計を立てることに意欲を持っている。	さまざまな情報を取捨選択・活用している。	進路実現に向けて主体的に行動し，改善することができる。	学ぶことや働くことの意義を理解している。

### 個別の目標と支援（例）生徒A

個別の目標 自分が将来やりたいこと，なりたいことをあげることができる。

支援 ワークショップ型の学習を取り入れる。

評価規準 自分の未来予想図を描くことができる。

（関心・意欲・態度／キャリアプランニング能力）

指導計画と実施時期（全8時間 平成27年4月～6月に実施）

	1 学年	2 学年	3 学年
第1次	進路を語る会（2時間）	進路を語る会（2時間）	上級学校の生活（2時間）
第2次	私の未来予想図（2時間）	私の未来予想図（2時間）	進路を語る会（2時間）
第3次	私と生活（2時間）	仕事と生活（2時間）	余暇の過ごし方（2時間）
第4次	余暇の過ごし方（2時間）	余暇の過ごし方（2時間）	私の未来予想図（2時間）

学習活動の様子



進路を語る会（青年学級生の話聞く）



仕事と生活（2学年）

指導上の工夫点・改善点

- ・「進路を語る会」では、中学生が青年学級生（本校特別支援学級卒業生）から直接話を聞くことを通じて自分の将来の生活を考えていくきっかけとなるよう、特別支援学校高等部や専門学校で学んでいる人、学校生活を終えて就労している人の中から5名に事前にアンケートを行い、それをもとに当日それぞれに話をしてもらえるようにした。アンケート内容は、毎日の生活パターン・楽しさややりがい・大変さや苦勞・休日の過ごし方・中学校時代に学んでおいてよかったことや学んでおけばよかったことなどとした。
- ・全体で話を聞いた後は、中学生と青年学級生で小グループでの活動場面を設定し、発表者以外の話を聞いたり、疑問点を直接質問したりできるようにした。
- ・「私と生活（1学年）」「仕事と生活（2学年）」「上級学校の生活（3学年）」では、学年を追って「〇〇になりたい」という夢や憧れ、自分の持っている力への気づき（得意不得意への気づき）、世の中にある様々な職業について、中学校卒業後の進路先の具体的な学習を通して、生徒が自分の将来のこととして学び、考えることができるようにした。

生徒の変容

- ・「進路を語る会」は、生徒が中学校で先輩として知っていた人や、青年学級との合同行事等で顔見知りの人から、上級学校や就労について直接話を聞けるため、興味を持ちやすく、また、自分がどこに行けばどんな生活になるのかということをも身近に、より具体的にイメージすることにつながった。
- ・働きたいという憧れとともに、仕事の厳しさ難しさを感じる生徒、中学校での勉強をより頑張ろうとする生徒、特に3学年では、進学先での部活動を含む放課後の過ごし方まで意識した発言も見られるようになった。

## キャリアマネジメント（くらし）分野 単元計画と授業実践

単元名 「〇〇説明会」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 3組全体 しごとグループ 各学年など

### 単元設定の理由と指導内容

作業を伴うような学習場面においては、他者を意識して自分の作業を振り返ったり、その良し悪しについて意見を述べたり、改善策を考えたりするなど、他者と協力して自らの活動を振り返る姿が見られるようになってきている。本単元では、各グループで自分たちが日々学習してきたことの中から一つを選択し、説明を行うこととする。説明会を自分たちの力で成し遂げるための手段や手順を検討し、役割を分担し実行していく過程で、一人ひとりの役割を明確にし、個人の活動をグループでの活動の重要な役割として意識させることができる。また、他者に説明を行うためには、まず、自分自身がそれについてよく理解している必要がある。説明会にむけて、日々の活動やその目的を、他者に伝えるという視点を持って考え、まとめ、説明することを通して、理解をより深めたり確かなものにしたたり、今後に向けてより良い学習活動にしていくことに意欲を持ったりすることにつながると考える。

### 指導目標

- (1) 自分の役割と責任を意識し、担当する役割を遂行することができるようにする。
- (2) 発表内容について、参観者からの質問に対応することができるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	協力して説明会を行うことに意欲を持つ。	他者の意見を取捨選択できる。	他者や自分の意見から説明にふさわしい意見を選択することができる。	自らの意見を伝えるよりよい方法を理解することができる。
自己理解・自己管理能力	自ら学習したことを伝えることに意欲的である。	担当箇所について、よりよく伝える方法を工夫することができる。	他者と協力して説明資料の作成ができる。	活動によって学習したことを理解できている。
課題対応能力	自分の役割を意欲的に遂行することができる。	自らの役割遂行のために行うべきことを判断し行動することができる。	質問に対して的確な受け答えができる。	質問の内容を理解し、正確な受け答えができる。
キャリアプランニング能力	今後の活動のための改善点を意欲的に考えることができる。	説明したいことが、相手に伝わったか確認し判断できる。	今後の活動に生かせる意見を発信することができる。	学習の目的や内容を理解し、他の学習に生かそうとすることができる。

### 個別の目標と支援（例）生徒〇

個別の目標 堂々とした態度で、最後まで落ち着いて説明することができる。

支援 不安が見られた場合は、説明内容や話し方についてこれまでの学習を思い出させるような声かけで再確認させる。

評価規準 担当箇所について、よりよく伝える方法を工夫することができる。

（思考・判断・表現／自己理解・自己管理能力）

指導計画と実施時期（全8時間 平成27年10月～12月に実施）

	主な学習内容
第1次 説明会の実施について （2時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが、おすすめする東雲中学校のよさを考える。</li> <li>・東雲中学校のよさについて誰かに伝えていくことを考える。</li> <li>・東雲小学校の児童が、知っていることや知りたいことについて、アンケート調査を行う。</li> <li>・小学生のアンケートや東雲中学校のよさについてまとめる。</li> </ul>
第2次 説明会の計画と準備 （4時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが説明する内容と計画を考える。</li> <li>・学年ごとに説明会の準備・練習をする。</li> <li>・リハーサルを行い、説明の工夫をする。</li> <li>・説明会に向けて最終確認をする。</li> </ul>
第3次 説明会（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生を招き、説明会をする。</li> </ul>
第4次 説明会を終えて（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく出来たことと、もっとよくなるポイントを考えてみる。</li> </ul>

学習の様子



小学生にアンケート



話し合い活動の様子



説明会当日の様子

指導上の工夫点・改善点

- ・説明会を行うにあたり自信を持って説明するために、自分たちの中学校のよさを理解して、それを小学校の生徒に伝える活動を中心にした。
- ・中学校のよさや説明の仕方の工夫などを考える場面では、生徒が説明する活動に意欲が持てるように、生徒それぞれが意見を出し合い、話し合い、考え、決定していけるように工夫した。
- ・ワークシートでの振り返りや、生徒らが考え工夫した点を、アピールポイントとして意識させるようにした。
- ・学習のまとめや様子を、教室内に掲示するようにし、いつでも生徒が振り返れるようにした。
- ・説明の場面や、リハーサルでは、タブレットPCを使用して、説明の様子を記録し振り返りの活動に使用した。

生徒の変容

- ・説明をする活動の中で、発表の仕方を工夫して、相手のことを考えた、説明の仕方について意識して取り組んだことで、上手くできたことや次への改善点など、次へとつながる振り返りができてきた。また振り返るための自己の評価の場面においても、他者からの改善点として素直に受け入れることができてきた。それに伴って自己の評価について正しく評価できるようになってきていると考える。
- ・後日、小学生に事後ビデオアンケートを行った。中学生が説明した内容をしっかりと覚えており、早く中学生になりたいなどの反応があった。生徒は自分たちの説明に自信を持つことができ、次の活動である交流発表会に積極的に取り組もうとする意見も多くみられるようになった。

## キャリアマネジメント（くらし）分野 単元計画と授業実践

単元名 「地域でのくらし」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名、女子3名）

指導形態 学年ごと

### 単元設定の理由と指導内容

自分たちのくらす地域にある公共施設や交通機関を知り、地域の中で自分ができることを考えて行動するなど、自分と地域のつながりについて考え、地域の一員であることを意識し行動できる力が、将来の社会生活をより豊かにすると考える。本単元では、自分たちでできる地域貢献を考えて実行してみるという学習を行う。生徒たちは、学校や最寄りの駅周辺の清掃活動を計画して実行したり、学校にあるローズマリーを挿し木して苗を作り、ローズマリーの効能や活用法を記した紙を添えて地域の人に配ったりした。このような活動は、製品を販売して収入を得るといったような直接的な見返りはないが、いろいろな社会参加の仕方があり、人の役に立つことができることを学習することができる。地域の中で協調しながら生活していこうという気持ちを育み、また学習活動後に振り返りを行うことで、やってよかった、またやってみようという意欲が高まるようにしたい。

### 指導目標

- (1) 地域にある公共施設や交通機関を知り、関心が持てるようにする。
- (2) 社会の一員として、地域の人々とかかわりながら生活していくことに意欲が持てるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	自分も社会の一員であることに関心を持つことができる。	地域の人々のことを考えて、自分のできることを考えることができる。	地域の人々のことを考えて行動することができる。	自分も地域で暮らす一人であることを理解できる。
自己理解・自己管理能力	任された作業を最後まで遂行することができる。	他者と協力の場面で、より良い行動を選択することができる。	他者との協力や協働を主体的に行うことができる。	自分の持ち味を把握し、地域の中でできることを考えることができる。
課題対応能力	自らが行うべきことに意欲的に取り組むことができる。	自らが行うべきことを判断し行動することができる。	行動に必要な準備を他者と協力して行うことができる。	自らの役割を理解し、行動することができる。
キャリアプランニング能力	社会の一員としての役割と責任について関心を持つことができる。	目標に沿って行動できているか判断することができる。	目標がどれくらい達成できたか評価することができる。	社会の中で自らが果たすべき様々な立場と役割を踏まえて行動することができる。

### 個別の目標と支援（例）生徒C

個別の目標 自分たちにできる地域貢献活動を発表することができる。

支援 体験者の話や新聞、インターネット等の情報を提示する。

評価規準 いろいろな情報や時間、場所等を考慮している。

（思考・判断・表現／人間関係形成・社会形成能力）

指導計画と実施時期（全4時間 ※1学年は7時間

1・3学年は平成27年11月，2学年は平成27年6月に実施）

第1次 地域のことを知り地域のためにできることを考える

（1時間 ※1学年は3時間）

第2次 地域貢献活動（2時間）

第3次 活動の振り返り（1時間 ※1学年は2時間）

### 学習の様子



学校周辺の清掃



集めたごみを分別

### 指導上の工夫点・改善点

- ・本校生徒は広い地域から通学してきているため，1学年は学校周辺のことを学習する時間を確保した。また，初めての学習であるため，計画を立てる導入段階と振り返りの時間を多く設定した。
- ・校外での活動のため，特に安全面に配慮が必要である。ゴミ拾いに夢中になり道を横断したり車道に出たりといった危険な行動があり，事前に細かく指導する必要がある。

### 生徒の変容

- ・地域の人に自分から積極的に挨拶をしたり，声をかけたりする様子が見られた。
- ・計画段階では消極的だった生徒が，活動途中に「いっぱいゴミが取れるのがたのしい」と言い，積極的な態度に変わっていった。
- ・振り返りでは，「生徒会が行っているボランティア清掃にも参加してみたい」という意見や「次は，遠くに行ってゴミを拾いたい」「定期的に清掃活動をしたい」「日本全国きれいにしたい」「学校全体にこの活動を呼びかけたい」「地域の人に『ありがとう』と声をかけられてうれしかった」など，達成感を感じ活動をさらに広げていくことに意欲的な意見が出された。
- ・指示されなくても清掃道具を洗ったり返しに行ったりといった，主体的に考えて行動する様子が見られた。

## キャリアマネジメント（かてい 食生活）分野 単元計画と授業実践

単元名 「わたしと食生活」

指導対象 東雲中学校 全学年3組 16名（男子13名，女子3名）

指導形態 学年ごと

### 単元設定の理由と指導内容

将来的な自立と社会参加を視点とし、必要な課題への実践的な態度を習得させる。成長期にある生徒の食生活において、課題が山積する実態がある。具体的には、簡便なインスタント食品の多用や偏食による野菜不足、あるいは夜間の間食や個食などの食習慣がみられる。栄養バランスのとれた食事、規則正しい三食のリズムの重要性に気づき、また食を通じた人と人とのつながりや、食文化の継承への思索を深め、生涯を通して健康な生活を送るための「食に関する知識や技能」を学ぶために、本単元を設定した。

指導にあたっては、栄養素の働きと食品の関係を学習し、バランスよく摂取するための献立の立て方を学習する。また、基礎的な調理技術を習得し、自ら食事の準備ができるよう自信を持たせ、実生活で実践できるようにする。

### 指導目標

自分の身の回りの食環境に関心を持ち、健康で安全に暮らしていける食生活を自ら整えることができるようにする。

- (1) 自分の食生活を振り返り、身の回りの食環境に関心を持つことができるようにする。
- (2) 食事の役割について理解し、栄養バランスのとれた食材の組み合わせを考えた「献立」を作ることができるようにする。
- (3) 基本的な調理器具の名称や適切な使用方法を理解し、安全で衛生的に調理実習を行う。活動に見通しを持ち、分担と協力を行い最後まで集中して取り組むことができるようにする。
- (4) 食事をするマナーやエチケットを知り、周りの人とともに楽しく食事ができるようにする。

### 評価の観点

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	共に生活していく家族や地域社会について食の面から関心を持つ。	健康的なバランスのとれた食生活や安全な食環境について考える。	分担・協業して調理実習などの活動ができる。	家庭内や地域で暮らすための「食のありかた」を理解できる。
自己理解・自己管理能力	自分の周りの食環境や他者との違いに気づく。	自分にとって健康的な食生活とは何かを考える。	簡単な献立を作り、調理を行うことができる。	自分の課題と役割について理解できる。
課題対応能力	バランスの良い食生活に関しての関心を持つ。	食生活の中での問題点を判断し、完全策を考えることができる。	目的にあった調理器具を安全に使用することができる。	なぜ栄養バランスが重要かを正しく理解する。
キャリアプランニング能力	健康的な生活について考え、「食」への関心を持つ。	どのように食べて、いきいきと暮らしていくかを計画することができる。	継続的に栄養バランスを振り返り、日常生活の改善を図ることができる。	人にとって安全で健康的な食環境について理解し、実践に努める。

## 個別の目標と支援（例）生徒G

個別の目標 必要な用具を自分で選ぶことができる。

調理器具の正しい扱い方がわかる。

支援 絵カードや具体物を使って示す。作業分担を示し、必要な用具を明らかにする。

評価規準 調理内容に適した用具を使用して調理実習を行うことができる。

（課題対応能力／技能）

## 指導計画（全70時間 1学年は1学期，2学年は2学期，3学年は3学期に実施）

第1次 健康的に生活するための基礎を学び，栄養素の種類や働きに理解をし，さまざまな食材の特性を知る。調理の基礎を学ぶ。（24時間）

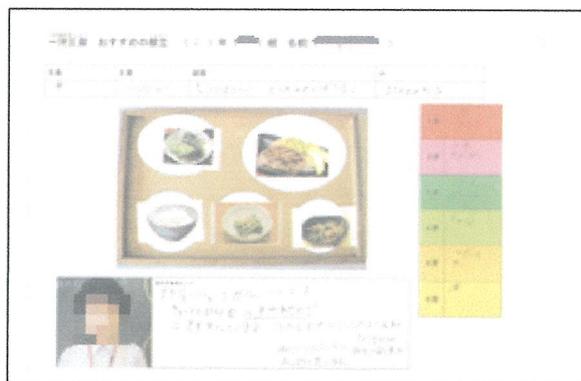
第2次 自分の食事内容や社会の食環境を振り返り，栄養のバランスのとれた献立を立案する。安全で衛生的な調理ができるようになる。（23時間）

第3次 自分の食生活における課題を深め，改善策を考える。食材をいかした調理法を考え調理する。食事のマナーを身につけ，周りの人とともに楽しく食事する方法を考える。（23時間）

## 学習活動の様子



かまぼこの飾り切りでおもてなし



栄養バランスを考えたおすすめの献立

## 指導上の工夫点・改善点

- ・カードゲームを取り入れることで，五大栄養素と6つの基礎食品群，それぞれ多く含む食品例の関係について抵抗感なく学習に取り組めると考えた。
- ・6つの基礎食品群の学習で日常食の料理についても摂取できる食品群を学習することで，献立作成の際，栄養バランスを気にしながら料理を選択することができると思った。
- ・献立の基本形を理解する学習をすることで，実際の食生活を振り返りながら，自分の理想とする献立作成ができると思った。
- ・基礎的な調理技術（切る，焼く，ゆでる）を習得できるよう，繰り返し調理実習を仕組み，身につけた技術で他の仲間に料理を振る舞うことで，自信をつけ実生活で活かそうとする意欲を高められると考えた。

## 生徒の変容

- ・カードゲームを繰り返し行うことで，正解率が上がり，短時間で理解を深めていた。特に日常食の料理例とその料理に使われている食材を学習したことで，生徒が料理に使われている材料をよく知らない実態がつかめたが，楽しい雰囲気のカードゲームによる学習で，繰り返しの学習ができ，理解を深めた。また，自分の考えた献立のおすすめポイントを意識しながら立てることができた。
- ・仲間に料理を振る舞うことで，より丁寧に調理に取り組む姿勢がみられた。また，仲間からの肯定的な評価をととても喜び，家庭でもやってみたいと意欲を見せた。

## V. 改善カリキュラム実施による生徒への効果と課題

生徒の変容を、直接観察やワークシート等の記述、アンケート等により見取り、生徒への効果と課題を考察する。

### 1. 授業観察による生徒の様子

授業観察における生徒の様子を、単元ごとに作成した観点別の評価規準を基に見取り、評価を行った。授業実践においては協働的に問題解決をする場面や役割を担う場面を多く設定したり、自己肯定感を高められるような言葉がけをしたりして指導・支援を行った。努力や上達を認める言葉がけにより自ら行動するようになった生徒や、生徒間で話し合いを行う場面において意見が出せなかった生徒が自ら挙手をして発表する、付箋を使用することで意見を表出できるようになるなど、学習や活動の場面において主体性を発揮し、意欲が高まった様子が見られた。また、役割が明確になることで集中しにくい生徒が落ち着いて取り組むなどの変化が見られた。

「社会生活に関する内容」の単元「地域での暮らし」で、2年生は通学路の清掃活動を実施した。授業後の振り返りでは「地域の人にお礼を言われて嬉しかった」と地域の人との関わりに関することや、「定期的に清掃を続けたい」「この活動を中学校全体に呼びかけたい」と感想だけにとどまらず今後の活動への展開を期待するような発言が出た。これは前年度と同様の傾向であり、対象生徒が変わっても同じような姿が見られた。

「社会生活に関する内容」の単元「〇〇説明会」の実施にあたり、東雲中学校のよさを考える学習をした。短冊カードを使用して生徒一人一人の思いを引き出す

中で、このことを小学生に伝えたいという意見が生徒から出たり、小学生は中学校のことをどれくらい知っていて何を知りたいと思っているかという疑問も生じ、小学生にアンケートを実施したりした。中学2、3年生が昨年度の説明会での経験をもとに思考する姿や、説明を行う対象が明確になったことで昨年度よりも意欲的に活動する姿が見られた。

### 2. 単元実施による資質・能力の向上

授業の振り返りで生徒が記入するワークシートの自己評価では、「キャリアマネジメント」で育てようとする4つの資質・能力（ア、主体的な社会生活への意欲イ、他者と適切に関わる力 ウ、自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲 エ、自己の理解と把握による評価力）に関する項目を設定し、記述および4件法で調査した（図1）。記述には「意見を出すことができた」「学校のいいところを沢山知ることができた」「人の話も聞くことができた。」など授業の中で意見交流を行うことで感じた記述もあった。これらの結果を引き続き分析していくことで生徒への効果について検証していくこととする。

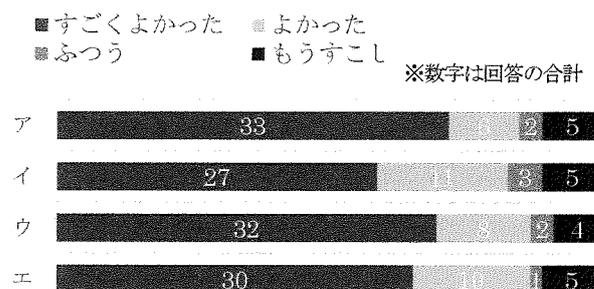


図1 キャリアマネジメントの育てたい資質・能力に関する生徒の自己評価

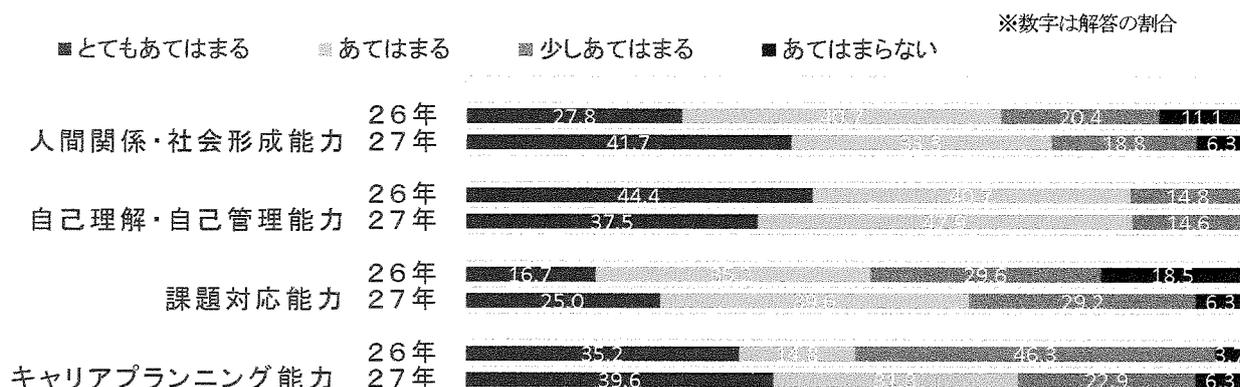


図2 キャリア教育の基礎的・汎用的能力に関わる生徒の自己評価

昨年度に引き続き、キャリア教育の基礎的・汎用的能力に関するアンケートを今年度5月に実施し変容を見た(図2)。4つの能力の全ての項目について昨年度より肯定的な意見「とてもあてはまる」「あてはまる」が多くなっている。このことから生徒は、「キャリアマネジメント」を含めた学習の中で力をつけてきていると自己評価していることがわかる。繰り返し学習し経験を重ねていくことが「キャリアマネジメント」でつきたい力を付けていくことになると考える。

### 3. 教師による評価

今年度4つに整理した「キャリアマネジメント」で育てようとする資質や能力について、本校教職員の見取りによる評価を行った。

ア、主体的な社会生活への意欲

清掃での役割遂行への意識が高まっている。自信のない言動もあるが、率先して行動できる場面が増えた。行事の際に、リーダーとなった生徒が他の生徒にアドバイスや注意を促す等積極的に行動することができ、注意された生徒も聞き入れようとする態度が増えた。高校へ体験入学に行った後、不安なことは一切言わず、高校生活へ大きな期待を持っていることがわかった。新しい環境に対しても積極的に挑戦しようとする態度が感じられた。

イ、他者と適切に関わる力

自分から挨拶ができる生徒が増えた。また、授業中、活動が遅れている生徒に対して積極的にサポートをしたり、指導と違う動きをした生徒に対し、適切に注意して一緒に活動しようとしたりする態度が見られた。通常学級の下級生に対しても声をかけ、上手に指示を出していた。しかし、関わり方が未熟なため他の生徒と衝突する場合も多々ある。

ウ、自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲

学校生活の様々な活動によって自信をつけている姿が見られる。部活動に欠かさず参加し、試合で練習の成果が発揮できたことを喜び、さらに練習に励みたいと発言した。また、授業中にわからないことを自ら質問し、次の授業に向けて行動したりする様子や、自らが立てた目標に対して意欲的に取り組む姿勢が見えてきた。しかし、作業があまり長続きしない生徒や実際は力があるのに「できない」と後ろ向きな発言をする生徒もいる。作業や行動を褒められると普段以上に一

生懸命になり、やりきることができる。

エ、自己の理解と把握による評価力

目標を持って取り組んだがうまくできなかったことを残念がり、何がいけなかったのか、どうすればよかったのか質問する姿が見られるようになってきた。また、自分ができることは最大限に発揮し、わからないことはわからないといえるようになってきた生徒がいる。一方、体育祭の練習でつらくて涙する生徒がいた。様々な課題にぶつかった時、自分の思いや状態を表現できるようになったらよい。

## VI. 改善カリキュラム実施による教職員への効果と課題

4種類のアセスメント(S-M社会生活能力検査、WISC-IV、K-ABC II、TTAP)の実施とともに、生徒を対象にキャリア教育の基礎的・汎用的能力に関するアンケートを実施した。指導内容や方法、評価項目を検討するうえで、現在の生徒の姿から見直すという視点と、将来の生徒の姿を想定して見直すという視点の両方から検討していこうという意識が高まった。

## VII. 改善カリキュラム実施による保護者への効果と課題

本学級の保護者は、入学前教育相談時のアンケートや毎年行っている個別の教育支援計画・指導計画作成のためのアンケートにおいても、高等部段階卒業後の進路として全員が就労希望である。また、青年学級生(本学級の卒業生)との合同行事があることや本学級および青年学級生の保護者で構成する親の会があること、校内に障害者雇用による環境職員2名(本学級の卒業生)が雇用されていることもあり、進路に関する話が日常的になされ、働くことや社会参加に関して期待や関心が高い。

### 1. キャリアウィークの実施

今年度、6月にキャリアウィークⅠ、11月にキャリアウィークⅡとして、「キャリアマネジメント」の各単元の一部を一週間程度の期間にまとめて実施した。

6月21日(日)に本学級の全学年生徒と、青年学級生、親の会が一同に会し、「進路を語る会」を行った。全学年生徒が参加するようになり今年度で2年目となる。将来の進路に対する意識の高揚や進路に関わる情報提供を意図し、保護者や卒業生を巻き込んだ活

動を組み込んで実施した。昨年度実施した際の保護者の意見や、生徒に学んでほしい内容を盛り込んだ内容を企画した。特別支援学校高等部や専門学校に通っている卒業生、特別支援学校高等部卒業後に学びの作業所で勉強をしている卒業生、マクドナルドで働いている卒業生、広島大学の清掃職員として働いている卒業生5名に、1日の生活や休日の過ごし方、現在頑張っていることや大変なこと、苦労しているところ、中学生の時にやっておけばよかったことや学んでおいてよかったことなどについて話をしてもらった。また、中学生は事前に用意しておいた質問を青年学級生にして答えてもらうことで、卒業後に対するイメージを描いていった。休日であったが中学生の保護者はほぼ全員参加であり、関心の高さがうかがえた。事後の感想には「進学先、就職先での様子がわかり大変参考になった」「働いている自分を誇りに思っていることに感動した」「卒業生の頑張りに勇気もらった」「卒業生の保護者からいろいろな情報が得られてよかった」

「就労している青年学級生が『ほう・れん・そう』が大事と発言したことが印象に残った」などがあり、進路を考えていくうえで参考になったようである。その他、「雇用者側の話を知りたい」「やりたい仕事とやれる仕事をどう折り合いをつけ本人に合った仕事をみつけるか」といった今後の「進路を語る会」に関する意見も出された。

## 2. アンケート調査の結果から

「キャリアマネジメント」の授業について、保護者がどのくらい知っているか(図3、図4)や、家庭での般化の様子(図5)について、平成26年度からキャリアアウィークⅠ、Ⅱ後にアンケート調査を継続して行っている。アンケートの記入にあたっては、4件法と記述を併用している。

昨年度のアンケートの結果から、保護者に学習内容を伝えるために情報提供の工夫が必要という課題点があがった。今年度は、学級通信に「キャリアマネジメント」の授業の様子を重点的に掲載し、参観日には「キャリアマネジメント」の授業を積極的に観てもらおうよう設定した。そのことにより、「とても」「まあまあ」知っていると答えた保護者の割合が増えた(図3)。般化の様子に大きな変化は見られないが、記述には「学校でパソコン入力の上達をほめられたことでやってみたい気持ちが高まり家でも取り組んでいる」「掃除や調理など自主的にするようになった」「自分から時刻表や地図を

見るようになった」などがあり、家庭で学習したことをやってみようとする生徒の様子がわかった。

「キャリアマネジメント」の学習による変化や成長としては、「授業で体験したことに興味を持ち説明している」「前向きな発言や質問が多くなった」「自分が将来やってみたいことについて話をするようになった」

「自分の役割を理解しこなせるようになった」「人の話や説明に興味を持って聞けるようになった」「仕事＝社会貢献という意識が持てるようになった」「明日のことを考えて行動をコントロールするようになった」といった記述があった。また、「キャリアマネジメント」の学習でつけてほしい力やさらに伸ばしてほしい力としては「質問する力」「この学習が自分の将来につながるという想像力」「自己表現する力」「経験を積むことでの自信」「責任を持って最後までやり通す力」「人と関わる力」「来自立して生活していくための生活力の基礎」「自分でできることの広がり」などがあげられた。生徒の変化や成長の様子、および保護者がつけてほしいと思っている力は、「キャリアマネジメント」の目標やつけたい資質・能力と合致していることがわかった。



図3 キャリアマネジメントでどのような学習をしているか知っている

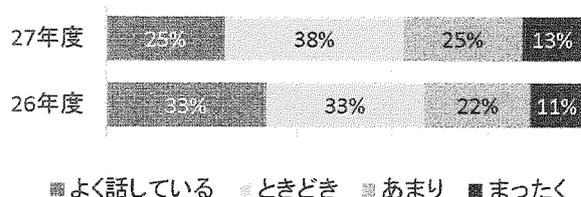


図4 キャリアマネジメントの授業で学習したことを家で話している

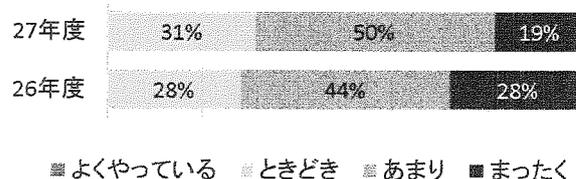


図5 キャリアマネジメントの授業で学習したことを家でもやっている

## VIII. 問題点と今後の課題

### 1. 「キャリアマネジメント」で育てようとする資質・能力、および教科「職業・家庭」に加えた内容について

資質・能力および加えた内容の妥当性について、アンケートや蓄積された実践資料などから具体例を挙げて根拠を示していくことが必要である。

### 2. 授業改善の取り組み

今年度5回の研究授業を実施し、外部評価を得てきた。その中で、生徒の実態把握に基づいた適切な目標設定ができていたのかを、授業後に個別の生徒の変容から分析し、適切に授業評価をしていくことが大切であるとの指摘を受けている。今後も教材や支援の工夫を行い、生徒が意欲を高め、達成感を味わえるような授業作りを目指して、授業改善に取り組んでいきたい。

### 3. 適切な評価方法の追究を目指して

評価の4観点と基礎的・汎用的能力の4能力をクロスさせた16項目の観点別による分析的な評価を行った。授業ごとに特に重点を置く観点を設定することで、単元全体を見通しながら授業ごとの視点を明確にして授業を行うことができた。教員による授業の振り返りで、生徒の目標・支援が適切であったか、生徒の力が高まったかについて確認し合うことができた。実践を積み重ねる中で評価規準を見直し、修正が必要な単元も出てきている。評価の細分化、重点化、信頼性などについては難しい問題であるものの、生徒の変容と授業の評価の整理・分析を十分に行う中で、適切な評価方法を追及していきたい。

### 4. ICTの活用

ICT機器（タブレット）と環境を整え、今年度10月から生徒の使用を開始した。研究計画を立てそれに沿って研究を推進しているところである。どの生徒もタブレットの使用に意欲的で集中して取り組んでいる。タブレットの活用によるコミュニケーション力や思考力、表現力の高まり、生徒自身が学習活動を即座に評価することによる自己評価力の高まり等の効果を今後検証していく。

## 参考文献

- 中央教育審議会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申），2011.
- 石塚謙二：知的障害教育における学習評価の方法と実際，ジアース教育新社，2012.
- 国立特別支援教育総合研究所：知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究―「キャリア発達段階・内容表（試案）」に基づく実践モデルの構築を目指して―，2010.
- 国立特別支援教育総合研究所：特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック，ジアース教育新社，2011.
- 文部科学省：特別支援学校学習指導要領，2009.
- 日本職業リハビリテーション学会：職業リハビリテーションの基礎と実践―障害のある人の就労支援のために―，中央法規出版，2012.
- 尾崎祐三・菊地一文：知的障害特別支援学校のキャリア教育の手引き実践編―小中高の系統性のある実践―，ジアース教育新社，2013.
- 上岡一世：社会生活スキルUPをめざす授業づくり，明治図書，2011.
- 上岡一世：勤労観・職業観がアップする！キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業作り，明治図書，2013.
- 湯浅恭正他：特別支援教育キャリアアップシリーズ③ 特別支援教育のカリキュラム開発力を養おう，黎明書房，2008.
- 渡辺美枝子：新版 キャリア教育の心理学 キャリア支援への発達のアプローチ，ナカニシヤ出版，2013.
- 渡辺美枝子：教科のできるキャリア教育，図書文化，2009.

Curriculum Development to Promote the Ability to Live in Society—Social and Vocational Independence  
through a Special Support Class at Junior High School

Tomoko FUJII, Mai ODAHARA, Tsutomu NISHI, Ayako MUKAI  
Takashi HAYASHI and Akihiko WAKAMATSU

**Abstract.** With the ongoing globalization in society, it is necessary to develop a new type of curriculum to prepare today's students for their future lives, especially their careers. The curriculum developed in this study places an emphasis on vocation and home life, and it includes a new subject—Career Management—which deals with social life. The lessons in each unit for this subject were evaluated using reference criteria and in terms of four career abilities. From these results, adjustments were made to the lesson content, and the effect of the new curriculum was measured. The curriculum was found to be effective for students, their parents, and teachers. It will be necessary in a future study to examine ways of developing the associated learning process and assess its effects with regard to promoting competencies.

**Key Words:** Special support education, Career education, Curriculum development